

IV-44 過疎イメージの構造化に関する基礎的研究

秋田高専 正 員 折田 仁典
秋田大学 正 員 清水浩志郎

1. はじめに

昭和40年代前半頃から社会問題化した過疎問題に対しては、今日までの約20年間にわたり諸々の対策が講じられてきた。しかしながら、十分な効果をあげるまでには至らず、全国総市町村3254のうち1158の市町村が過疎法の指定をうけている現状を鑑みるに、この問題の複雑さ、解決の困難さがうかがえる。過疎問題は複雑な要因から構成されており、更に、これら要因は互いに負の要因として働き、このため地域のイメージをも下降させている。このイメージの悪さは若者の地元からの流出、嫁ききん、果ては地域住民の「やる気」さえも欠如させ、地域の振興、活性化という面において、多大なるデメリットとなっている。本研究はこの過疎イメージの構造分析を行い、今後の過疎問題対策の一指針を与えようとするものである。

2. 解析手法および調査

景観、イメージ研究などが解析対象とする心理的空間には「知覚空間」と「印象空間」とがある。本研究で取り扱う「空間」は、人間の記憶、印象から形成される空間である「印象空間」である。解析には言語心理学の分野でオスグットが考案し、現在、景観の分析などに広く用いられているSD法(Semantic Differential Method)を適用した。調査は昭和62年12月に実施した。調査対象とした過疎地域は秋田県東成瀬村および増田町の2地域である。これら2地域は著者らの研究から、前者は「閉鎖型過疎地域」、後者は「地域間接続型過疎地域」として分類されており、その地域特性は異なっている。しかしながら、両地域ともに「過疎法」の指定を受け、人口減少に伴う諸問題の解決が大きな課題である点では共通性を持っている。

なお解析に用いたサンプル数は東成瀬村91票、増田町78票の合計169票である。

3. 過疎イメージの評価尺度

過疎イメージの評価尺度の設定およびコンセプトの確定のため、本調査を実施する前に、いくつかの

過疎地域における過疎問題に関するヒヤリングを行いKJ法を用いて解析した。その結果過疎イメージを創造することに深い関係を持つと思われる次の7つのコンセプトが確定した。すなわち、(1)公共、生活施設 (2)公共交通機関 (3)産業 (4)人間性 (5)自然環境 (6)道路施設 (7)地域の中心地(商店街)である。次に、これらのコンセプトに対して形容詞対を作成した。ここでは、形容詞間の類似性、形容詞のもつ意味などからも検討を加え、できるだけ価値判断を含む形容詞対を選定した。各コンセプトに共通した12の形容詞対を設け、更にそれぞれのコンセプトに特に関係のあると思われる形容詞対を3~7個付加した。これは、各コンセプト固有のイメージを知ると同時に、それらのコンセプト全体から形成される過疎のイメージをも分析しようとするためである。評価尺度は、「非常に」、「かなり」、「やや」、「どちらともいえない」の7段階とした。(図-1参照)なお、単刀直入に「地域全体のイメージは?」という質問も付加しておいた。また、諸々の過疎問題と過疎のイメージとの関係を分析するため、ヒヤリング調査および既往研究などから図-2に示すような24項目の問題を抽出、設定した。

4. 分析結果

4.1 過疎のイメージ

2地域別に各コンセプトについて分析を行なったところ、2地域で若干の差異はみられるものの、ほぼ同じような傾向を示した。前述のように、これらの地域は「閉鎖型過疎地域」(東成瀬村)、「地域間接続型過疎地域」(増田町)と分類されており、その地域特性は異なっている。それにもかかわらず、評定結果に差異がみられなかったことから、過疎イメージは、ほぼ共通したものであると推測される。

次に、各コンセプトごとに、2地域の評定スコアを平均した値を用いて分析したところ「人間性」、「自然環境」を除くコンセプトで、ほとんどの形容詞でマイナスとなり、「産業」、「地域の中心地」では、全ての形容詞でマイナスの評価であった。なお、各コンセプトと関係が深い形容詞は次のよう

あった。すなわち、「自然環境」→親しみやすい、安らぎがある、「人間性」→親しみやすい、保守的な、「公共・生活施設」→テンポが遅い、不便な、「公共交通」→テンポが遅い、不便な、「産業」→テンポが遅い、魅力がない、「道路施設」→テンポが遅い、不便な、「地域の中心地」→テンポが遅い、ありきたりな、などとなっている。各コンセプトに共通して設定した12の形容詞で、どのコンセプトにおいても比較的強く現われた形容詞としては、「さみしい」、「魅力がない」、「老けた」などが挙げられる。

4. 2 過疎問題と過疎イメージ

具体的に起こっている過疎問題と過疎イメージがどの程度結びついているかについて分析を行った。図-2は、自分の住んでいる地域を「非常に過疎だと思う」グループについての分析結果である。これを見ると、結びつきの強度に差はあるが、2地域ともに、「過疎イメージ」形成に関わりの深い問題として「雇用の問題」、「所得の問題」、「嫁不足」、「医療施設の未整備」、「高速交通体系の未整備」等が挙げられる。一方、「伝統行事の休廃止」、「共同奉仕活動への支障」等の地域住民のコミュニティに関する項目、あるいは「田、畑、山林の管理の問題」等と「過疎イメージ」とはあまり強く結びついていないようである。

5. まとめ

本研究では、「過疎イメージ」とはどのようなイメージか、過疎問題と言われる諸問題と過疎認識度合との関係などについて分析検討を行なったが、今後は「都市近郊型過疎地域」についても調査、分析を行ないたいと考えている。

《参考文献》

折田、清水：「過疎地域における地域構造分析」 岩下豊彦：「SD法によるイメージの測定」川島書店
土木計画学研究発表会講演集5

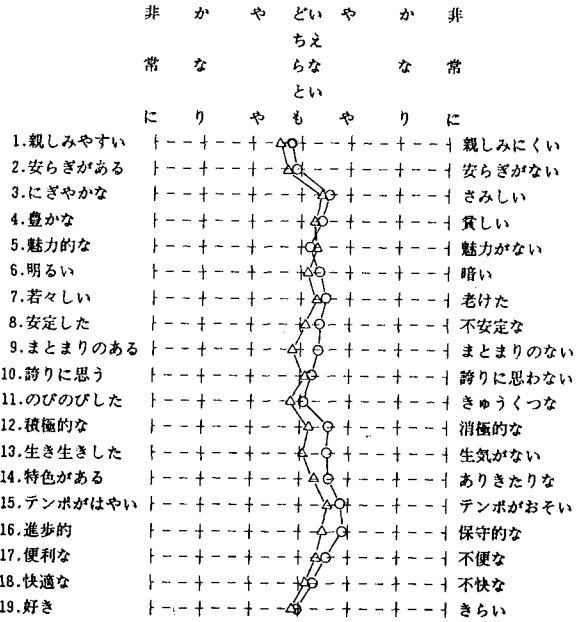


図-1 過疎イメージの分析結果（地域全体）

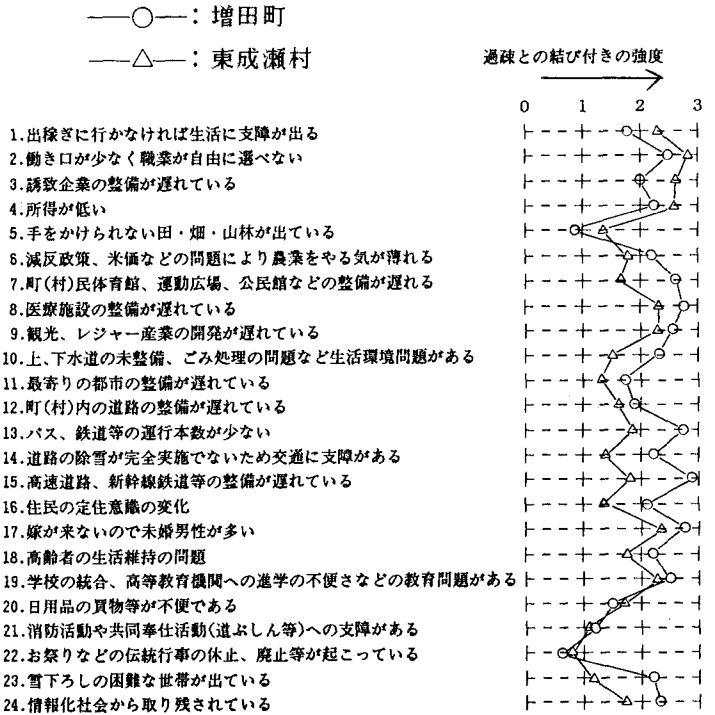


図-2 過疎問題と過疎との結びつき